

## 塩素ガス漏洩時の避難区域の設定

塩素ガスの拡散予測に関しては、そのデータが充分存在せず、発災時に塩素ガスの拡散状況を予測し、迅速に被害区域を予想することは難しいが、周辺住民の生命、健康確保を最大限配慮した場合、次表による避難区域の設定が妥当と思われる。

なお、実際の避難にあたっては、風位、風速、ガス濃度、地形による拡散危険度に応じ、緊急かつ弾力的な対応が必要である。

各ケース別避難区域（関東地方行政連絡会議震災対策幹事会資料）

塩素ガス貯蔵量	事故形態	避難優先区域面積	避難区域面積	避難区域の半径	条件設定
50kg ボンベ	ガス漏洩事故	9,600 m <sup>2</sup>	45,000 m <sup>2</sup>	120m	気温 35°C、風速 5m/秒、2分間で全量放出
	液漏洩事故	45,000	502,000	400	気温 26°C、風速 5m/秒、7分間で全量放出
1t ボンベ	ガス漏洩事故	13,600	166,000	230	気温 35°C、風速 5m/秒、1分間で全量放出
	液漏洩事故	109,000	2,716,000	930	気温 26°C、風速 5m/秒、2分間で全量放出
30t タンク	液漏洩事故	97,000	785,000	500	気温 35°C、風速 5m/秒、2分間流出
100t タンク	ガス漏洩事故	335,000	7,544,000	1,550	気温 35°C、風速 5m/秒、15分間放出
	液漏洩事故	120,000	1,056,000	580	気温 35°C、風速 5m/秒、2分間流出

避難区域等のモデル図

